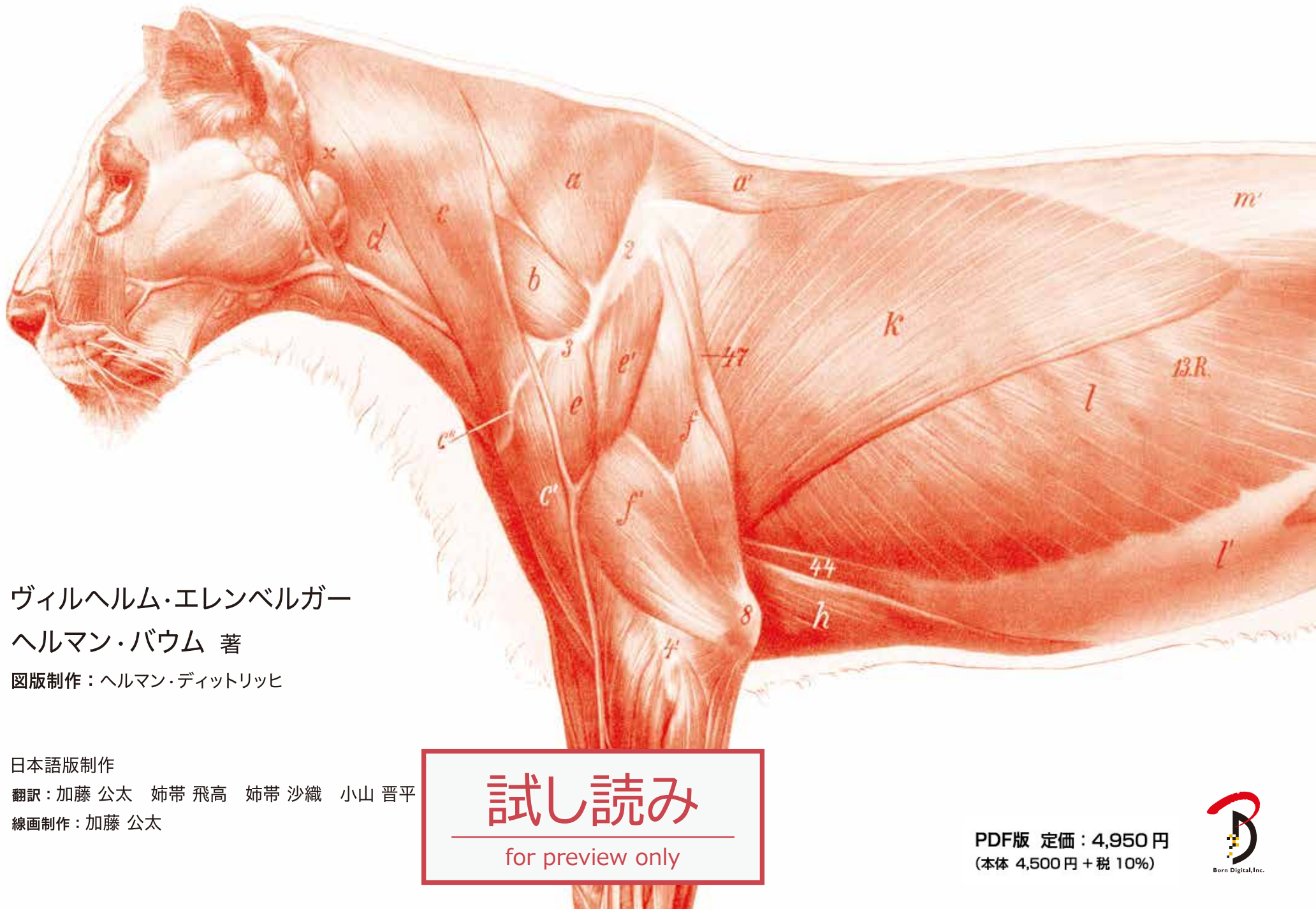


エレンベルガーの動物解剖学



ヴィルヘルム・エレンベルガー
ヘルマン・バウム 著

図版制作：ヘルマン・ディットリッヒ

日本語版制作

翻訳：加藤 公太 姉帯 飛高 姉帯 沙織 小山 晋平

線画制作：加藤 公太

試し読み

for preview only

PDF版 定価：4,950 円
(本体 4,500 円 + 税 10%)



エレンベルガーの 動物解剖学

著：ヴィルヘルム・エレンベルガー ヘルマン・バウム

図版制作：ヘルマン・ディットリッヒ

日本語版制作

翻訳：加藤 公太 姉帯 飛高 姉帯 沙織 小山 晋平

線画制作：加藤 公太



ダウンロードデータについて

本書のテキストページ(図版・線画を除く)は、ダウンロードしてご利用いただけます。

ボーンデジタルの WEB サイト (<http://www.borndigital.co.jp/>) にアクセスし、

本書「エレンベルガーの動物解剖学」の書籍ページからダウンロードしてご利用ください。

ダウンロードファイルは、パスワード付きの zip 圧縮ファイルです。

以下のパスワードを使い、対応したツールで展開してください。

gJ7wULZg

IMPORTANT

- ・ダウンロードしたデータは、本書の理解を深める目的以外で使用することはできません。
- ・データはすべて、制作者が著作権を有します。
著作権者の了解無しに、有償無償に関わらず、データを第三者に配布することはできません。
- ・データをサーバーまたは複数台のワークステーションにインストールして共同使用することはできません。

Copyright ©2020, by Born Digital, Inc., Kota Kato, Hidaka Anetai, Saori Anetai and Shimpei Koyama.

■ダウンロードデータ

ダウンロードでご提供するコンテンツは、本書を読み進める目的以外で使用することはできません。 有償・無性にかかわらず、データを第三者に配布することはできません。 データファイルを使用することによって生じた、偶発的または間接的な損害について、出版社ならびにデータファイル制作者はいかなる責任を負うものではありません。

■ ご注意

本書は著作権上の保護を受けています。 論評目的の抜粋や引用を除いて、著作権者および出版社の承諾なしに複写することはできません。 本書やその一部の複写作成は個人使用目的以外のいかなる理由であれ、著作権法違反になります。

■ 責任と保証の制限

本書の著者、編集者、翻訳者および出版社は、本書を作成するにあたり最大限の努力をしました。但し、本書の内容に関して明示、非明示に関わらず、いかなる保証も致しません。 本書の内容、それによって得られた成果の利用に関して、または、その結果として生じた偶発的、間接的損傷に関して一切の責任を負いません。

目次

本書について	IV
ウマ	1
ウシ	93
ライオン	153
シカ、ノロジカ、ヤギ	213
イヌ	249
索引	305

本書について

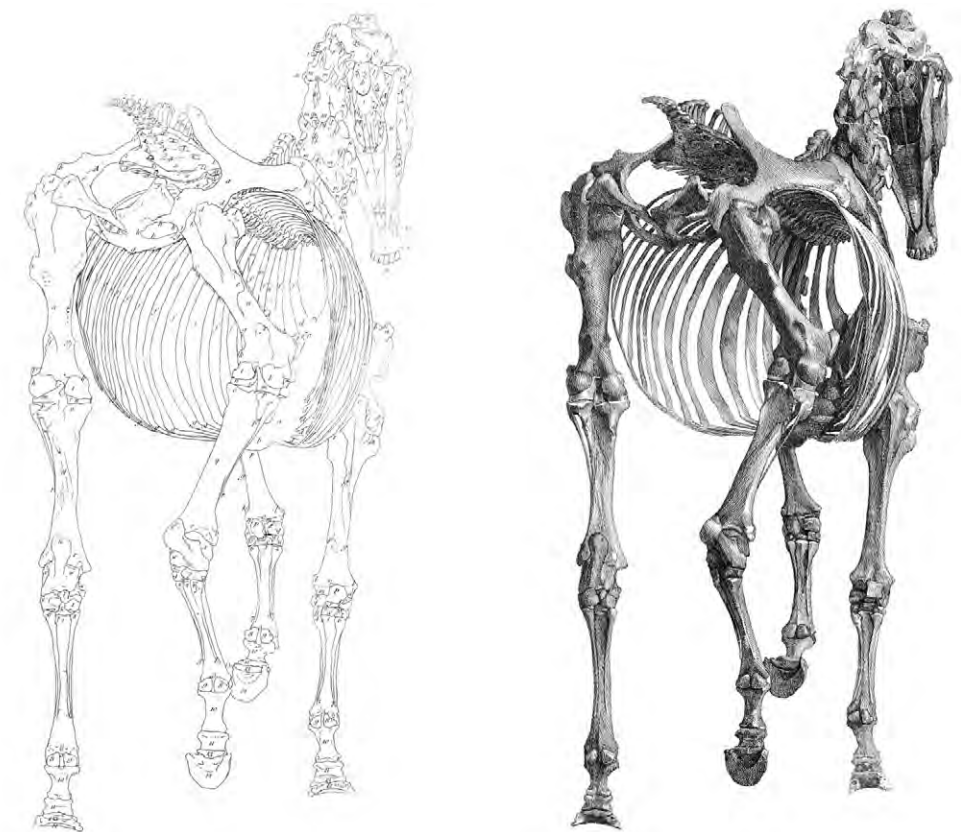
『芸術家のための動物解剖学(原題: Handbuch der Anatomie der Tiere für Künstler)』は、テキストによる教科書と5冊の図譜からなる計6巻組の書籍である。1900年頃から出版され始め、テキスト巻(1900)、第1巻ウマ(1898-1900)、第2巻ウシ(1896-1901)、第3巻ライオン(1905)、第4巻ヤギ・シカ・ノロジカ(1909)、第5巻グレートデーン(1911)の順に出版された。本書の影響力は大きく、美術解剖学、比較解剖学、家畜解剖学、獣医学など数多くの動物解剖学書に引用された。

著者のヴィルヘルム・エレンベルガー(Ellenberger, Wilhelm. 1848-1929)は、ドレスデン獣医学校の解剖生理学の教授を務めた動物解剖学者であり、弟子で共著者のヘルマン・バウム(Baum, Hermann. 1864-1932)とともに現代的な獣医解剖学および獣医生理学の始祖とされる。

彼らの代表作『家畜の比較解剖学ハンドブック(Handbuch der vergleichenden Anatomie der Haustiere)』は、19世紀末(初版年不明、1890年頃に第6版)に出版され、今なお販売され続けている。この書籍の図を担当し、その後『芸術家のための動物解剖学』の図を描いた画家が、ヘルマン・ディットリッヒ(Dittrich, Hermann. 1868-1946)である。

ディットリッヒは、ドレスデン美術大学出身の画家で、1909年から1933年にかけて同大学の美術解剖学の教授を務めた。ドレスデン美術大学は、美術解剖学教育の名門で、20世紀における美術解剖学教育の大家ゴットフリード・バメス(Bammes, Gottfried. 1924-2007)を輩出している。

ディットリッヒは卓越した描画能力によって、目で見た印象に近い写実的な光景を画面の中に再現することができた。本書に掲載された精緻な図版は、生きた動物と解剖体双方の観察に基づいており、図とほぼ同じ姿勢をとった動物の解剖写真がドレスデン獣医学校の資料に残っている。元になった解剖写真と図の大きな違いは、筋の膨らみや張りである。解剖した状態は、筋が弛緩し、痩せ、生気が失われる。それをディットリッヒは画面の中で生き生きとした状態に復元している。



ジョージ・スタップス『馬の解剖学(原題: The anatomy of the horse)』(1766)より骨格の第3図。

ボンデデジタルの復刻版では、オリジナルの6巻のうち、テキストによる教科書以外の5巻を日本語版として原著から翻訳・編集した。ほかの書籍から図を引用しないかわりに、これまで出版された復刻書や引用書のなかで最も原著に近い内容になっている。

新たに追加した内容としては、図の上に構造名を書き込むための線画を加えた。スタップスのような古典的な解剖図譜では、描写された解剖図の横に同じ輪郭の線画を並べ、その上に用語や記号を記載することがある。描写量の多い図版の上に記載する文字情報を抑え、なおかつ用語が対応する部位を理解しやすくさせるための配慮である。本書でもそれにならい、原図の次のページに対応する線画を配した。

そして最も重要なことであるが、図譜に添えられた解説テキストを収録した。解説テキストには雌雄の特徴や皮下に触ることができる構造など、図を眺めただけでは得られない情報が端的に書かれている。言葉の手引きによって実際の動物を確認してみたいという気持ちになる読者もおられるだろう。エレンベルガーとバウムによる記述と、ディットリッヒによる図の相互作用によって、内容の理解がいつそう深まっていくはずである。

最後に、本書に詳しい方々からしばしば指摘されるイヌのプレート5(p.258)の頭蓋骨の描写について少し触れておきたい。イヌの眼窩はプレート3(p.254)やプレート14(p.276)の側面図に見られるように上後方が閉じていないため、プレート5のように閉じているのは不自然に思われる。この眼窩を閉じる構造は眼窩靱帯と考えられ、本文p.301の12'で軽く触れられている。

本編未収録のテキスト巻でも眼窩の形態について触れており、本文には「ブタと肉食動物では、前頭骨と頬骨の間にある眼窩口の上方部分は、骨のアーチではなく、靱帯で形成される」(p.187)とあり、顔面角を示した小図(p.47)には、ネコの頭蓋骨に眼窩靱帯が描写されている。『家畜の比較解剖学ハンドブック』では「ブタ、イヌ、ネコでは、前頭骨と頬骨の間に隙間があり、強靱な

眼窩靱帯によって閉じている」(第15版、p.902)とある。したがって著者も画家も知らない訳ではなく、あえて描いたと考えられるため、特に図に修正などを加えずそのままにした。

100年を超えて受け継がれてきた本書が、動物に関わるアーティストや医療従事者、愛好家たちのリファレンスとなり、末長く愛される一冊となることを心から願っている。

2019年12月

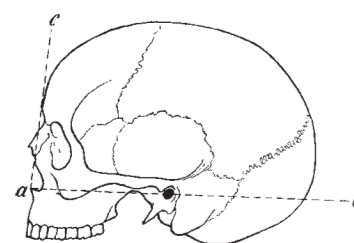


Fig. 16. Kopfskelett des Menschen mit Einzeichnung des Gesichtswinkels.

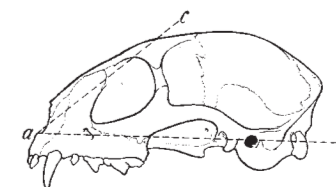


Fig. 17. Kopfskelett der Katze mit Einzeichnung des Gesichtswinkels.

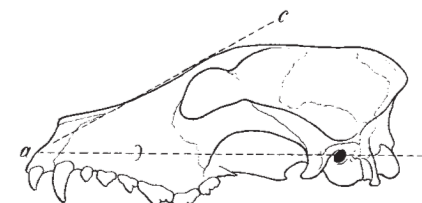


Fig. 18. Kopfskelett des Hundes mit Einzeichnung des Gesichtswinkels.

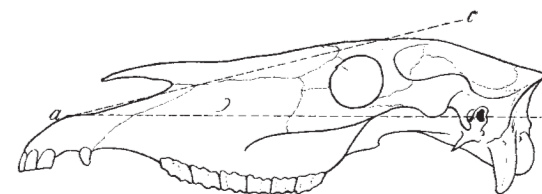


Fig. 19. Kopfskelett des Pferdes mit Einzeichnung des Gesichtswinkels.

a—b—c = Gesichtswinkel.

テキスト巻(未収録)p.47に掲載された顔面角を示す図。
右上のネコの頭蓋骨に眼窩靱帯が描かれている。

ウマ

観察に基づく20枚の図版

プレート1

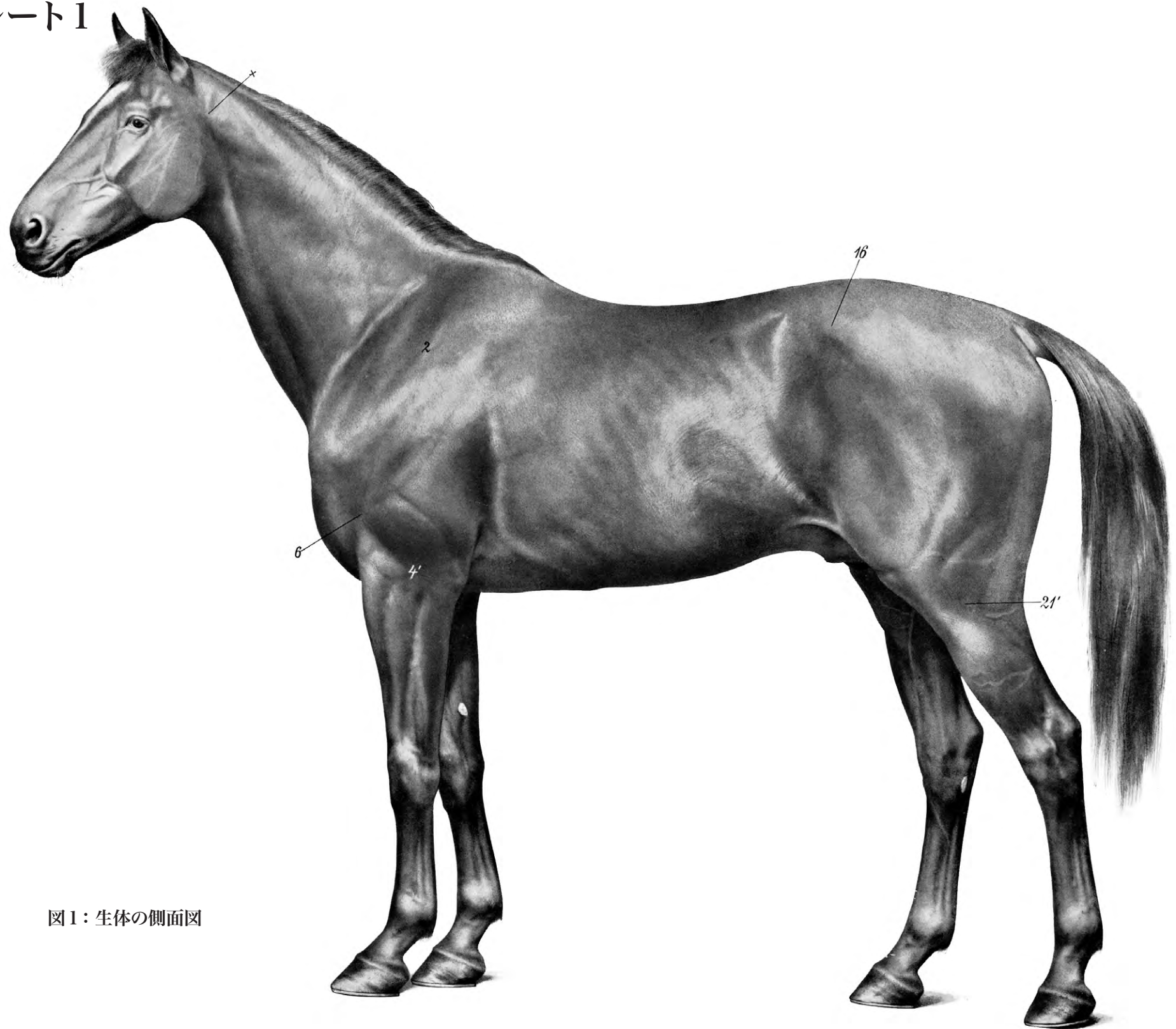
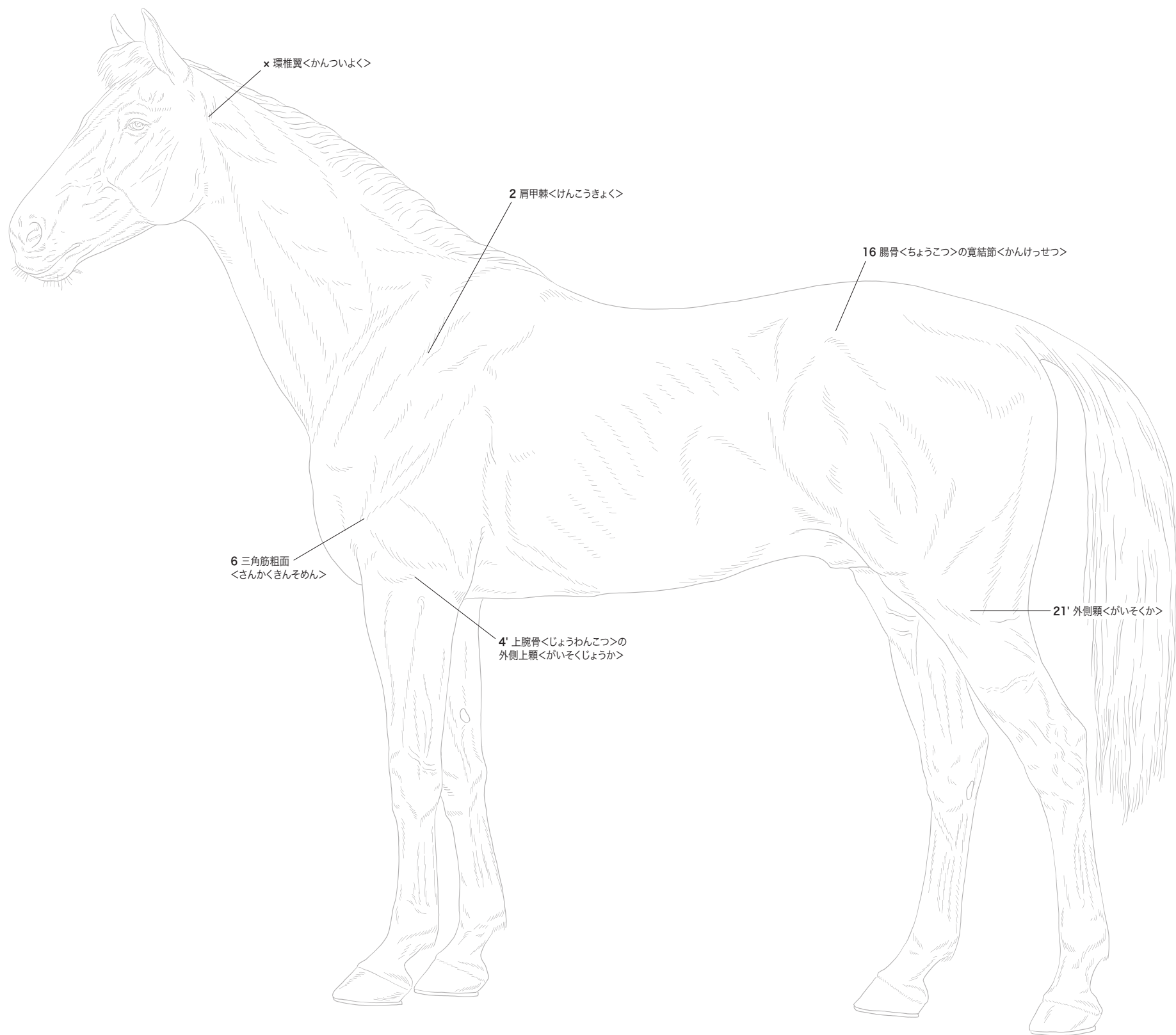


図1：生体の側面図



プレート2

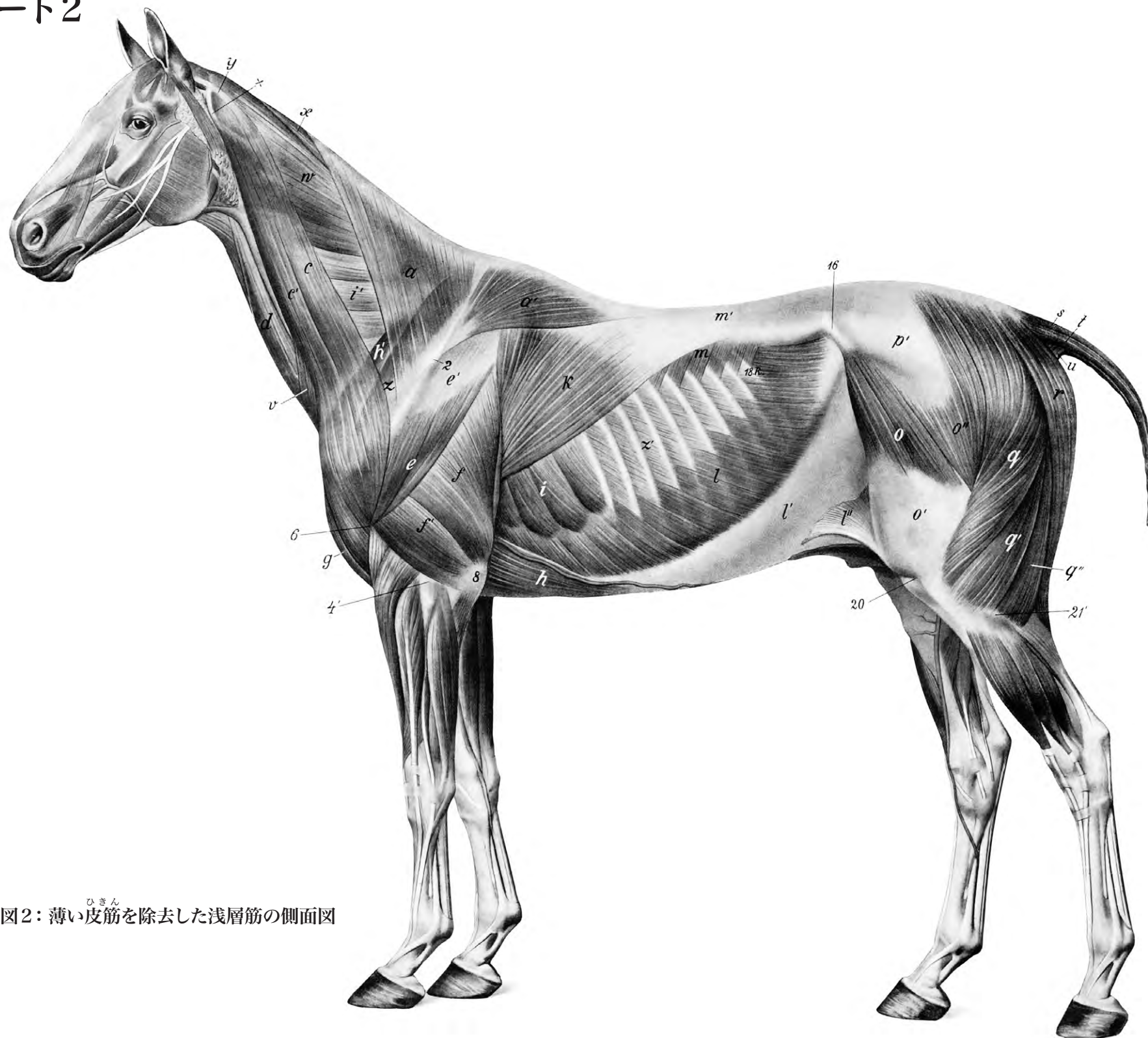
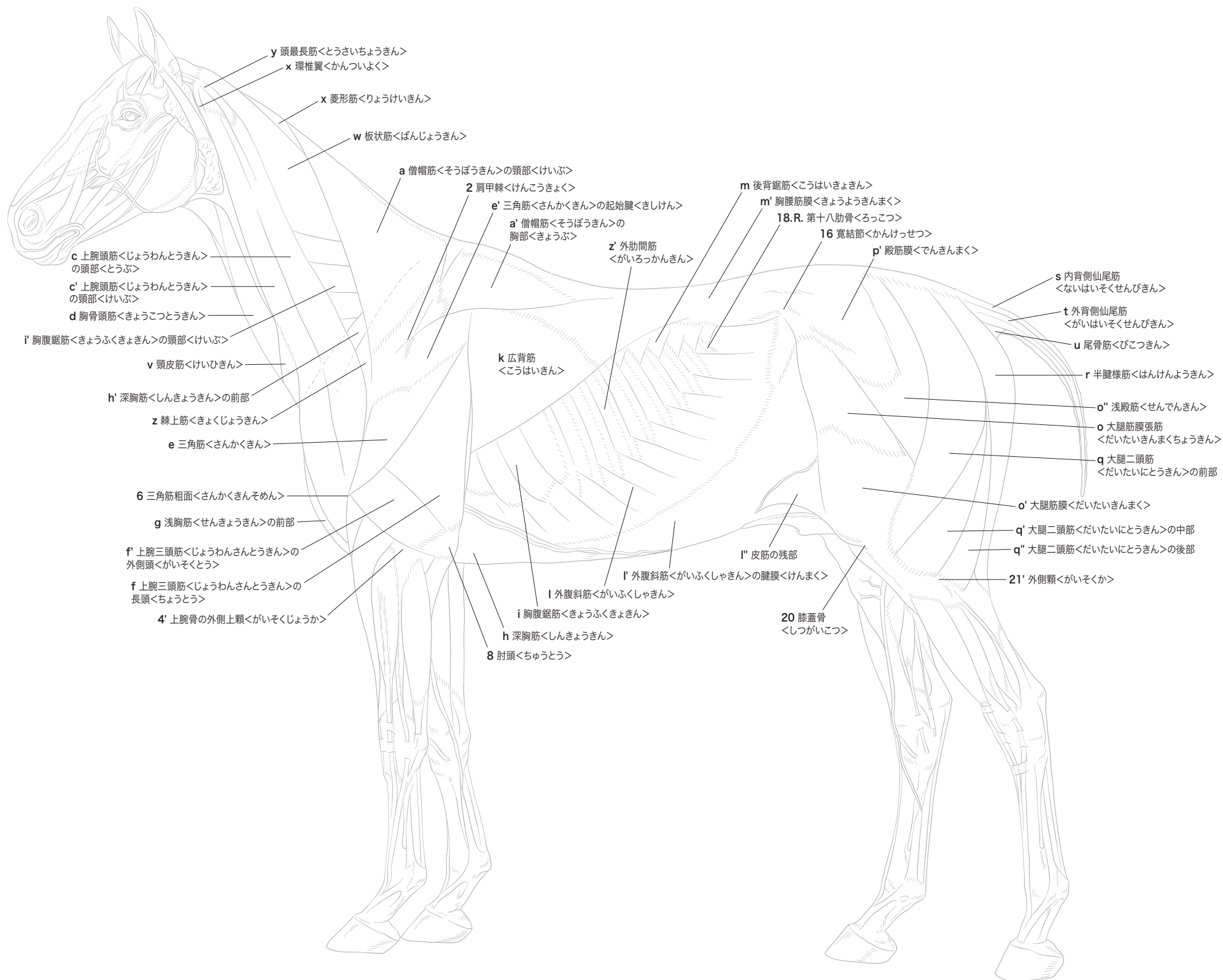


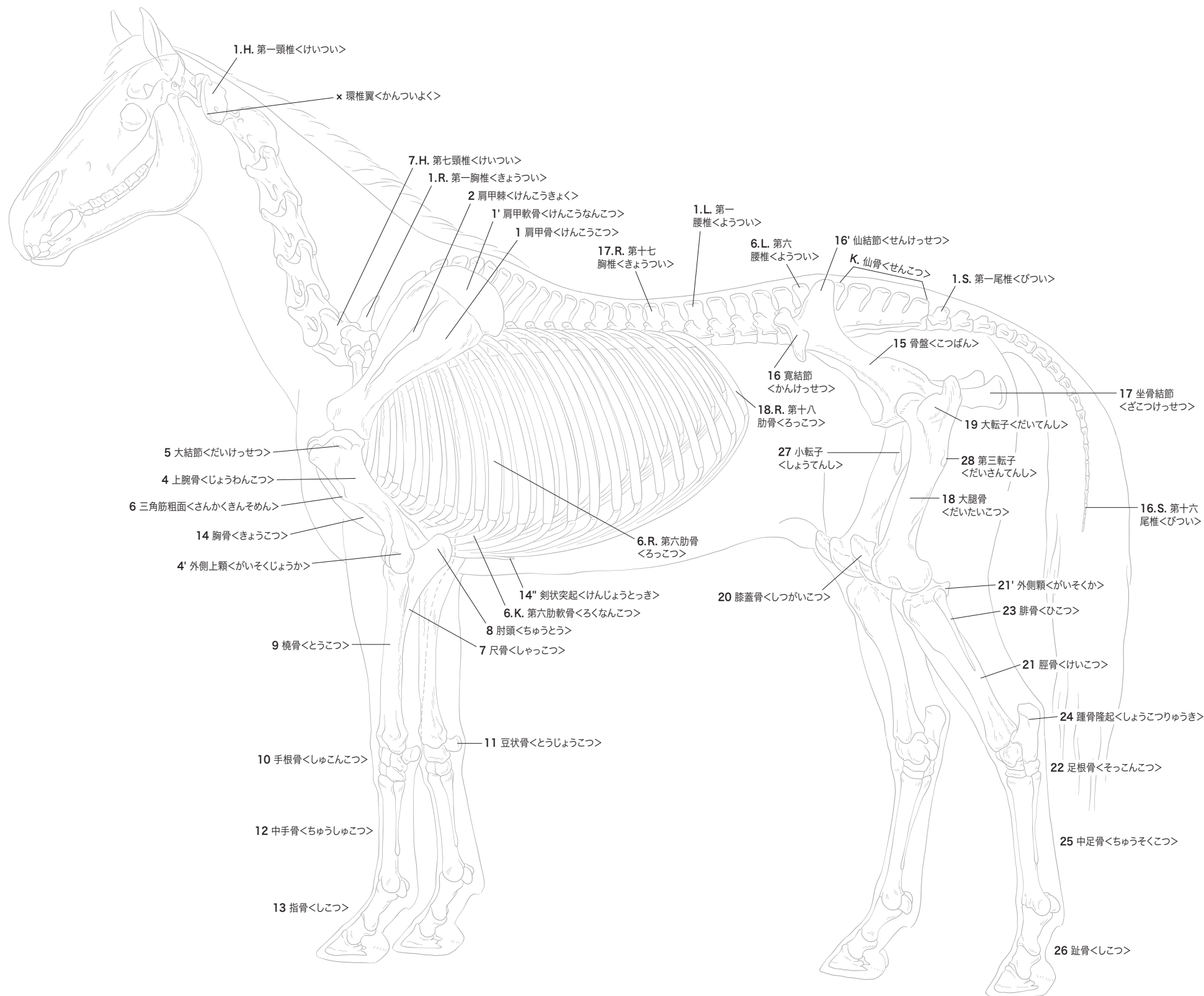
図2: 薄い^{ひきん}皮筋を除去した浅層筋の側面図



プレート 3

図3: 骨格の側面図

図3：骨格の側面図



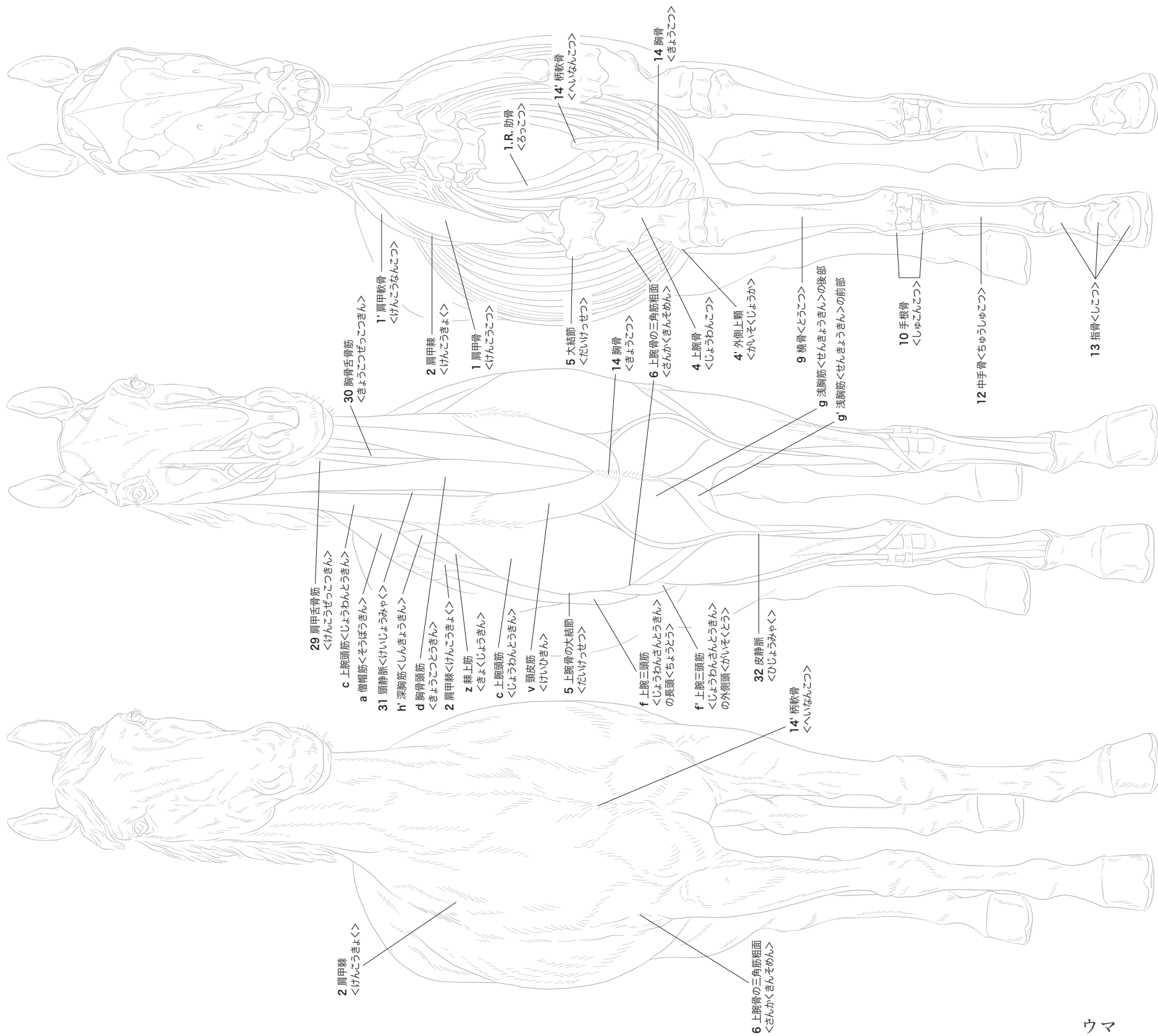
An anatomical illustration of a horse's head and neck, showing the jawbone and throat area. The illustration is labeled with '2' and '4'.

This anatomical illustration shows the head and neck of a horse from a side profile, with the skin removed to reveal the underlying musculature. The head is positioned on the left, and the neck extends to the right. Various muscles are labeled with letters and numbers:

- Letters:** a, b, c, d, e, f, g, g', h, i, v, w.
- Numbers:** 29, 30, 31, 32.

The labels indicate specific anatomical features and muscles, such as the jaw muscles (a, b, c, d), the laryngeal muscles (e, f, g, g'), and the muscles of the neck and throat (h, i, v, w). The numbers 29, 30, 31, and 32 likely correspond to specific anatomical points or structures mentioned in the accompanying text.

[illegible]



プレート5

図7:
生体の後面図

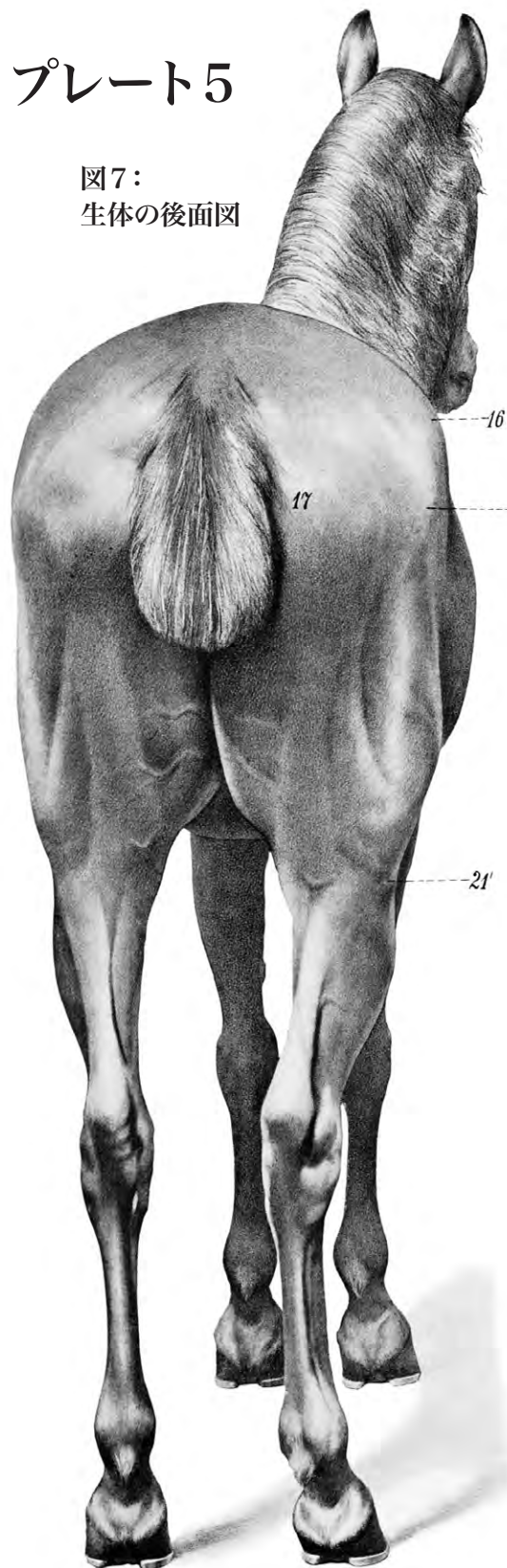


図8:
筋の後面図

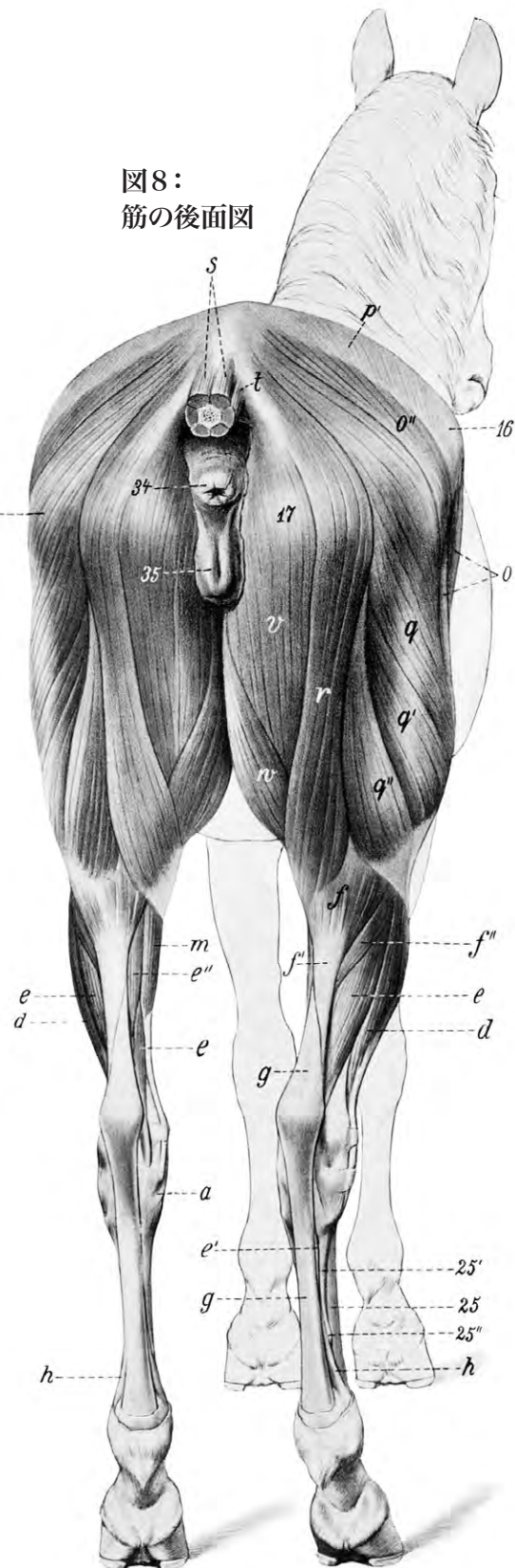
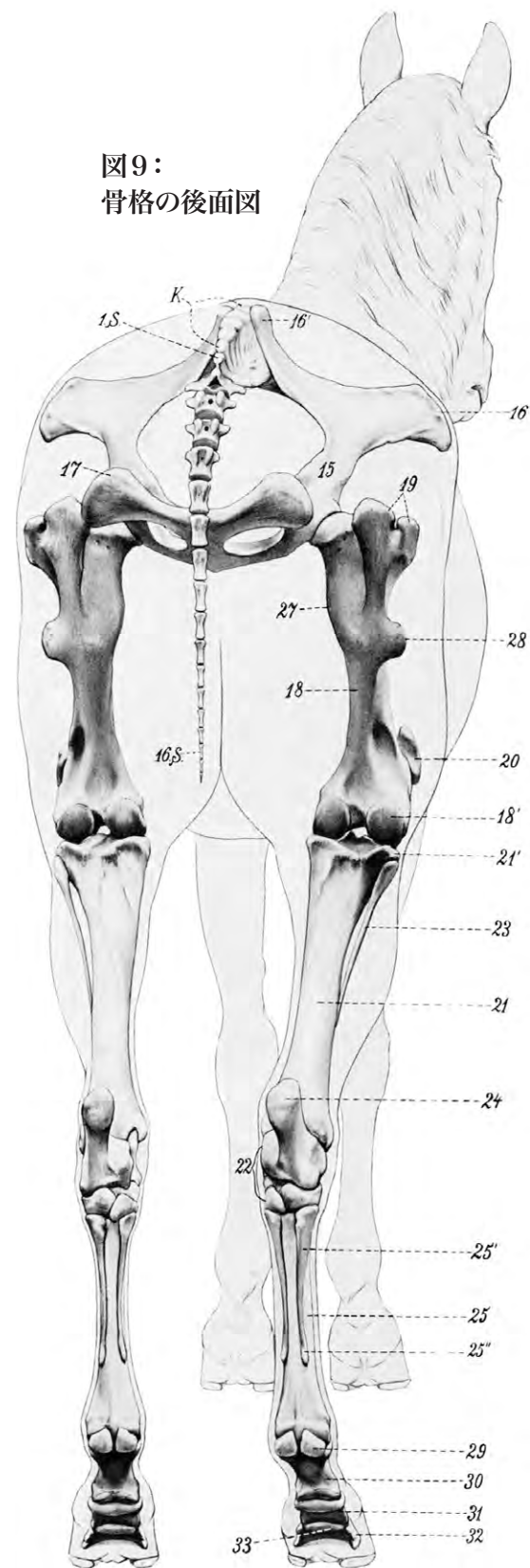


図9:
骨格の後面図



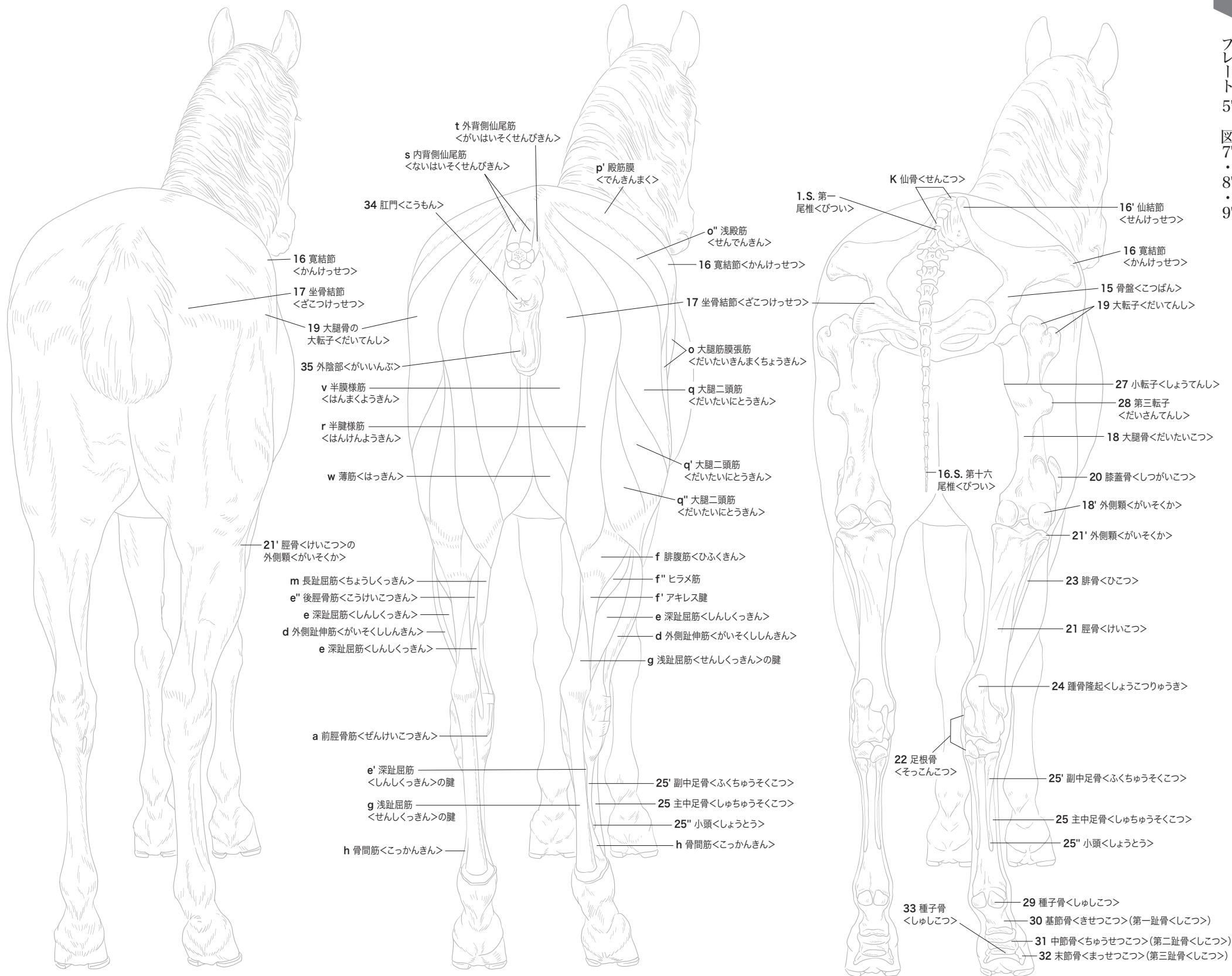


図10:
生体の上面図



図11:
浅層の筋の上面図

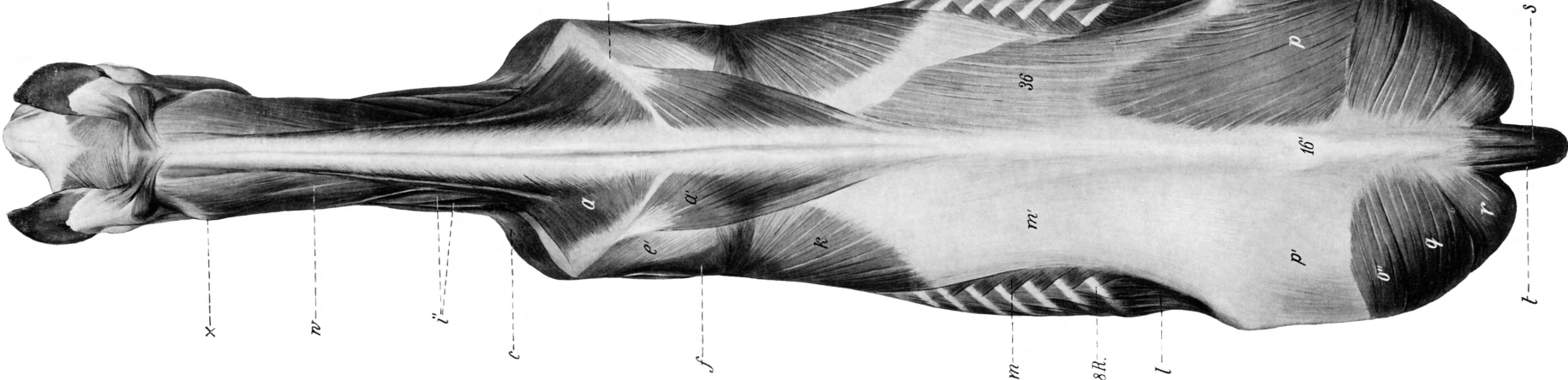


図12:
メスの骨格の上面図

